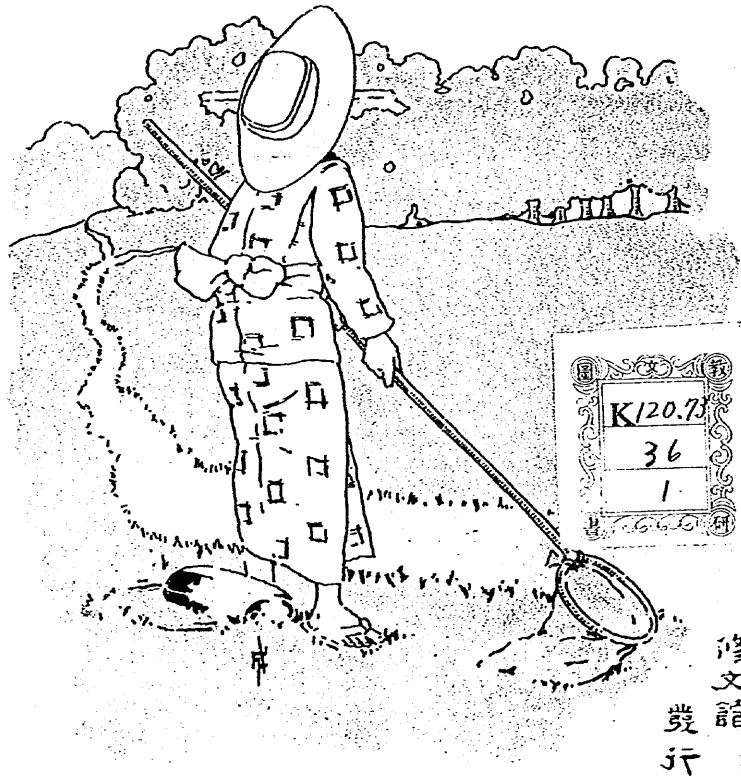


編藏虎村田 <sup>204</sup>  
歌 唱 本 讀 小國定  
年 學 一 科 等 高



K120.73

36

1

緒言

國定の小學讀本中の韻文は、さすがに教育的に出来て居て、唱歌、  
も十分應用し得るものと思ふ。余は是等韻文に曲節を附して、  
職せる東京高等師範學校附屬小學校の兒童に教授する考であつたが、  
たまたま修文館主も余と同じような意見を持して居るので、文部省の

許可を経て、茲に本書を公にすることとなりました。

惟ふに、このころ、唱歌書類が續々と出版されます故、是等の教材を各學  
年の程度に合わせて取捨選擇するは、随分手數のかかることである。然  
るに、國定の小學讀本中の韻文は、程度を逐うて出来て居る事は勿論、國  
語教授で、その意義をも兒童が十分會得して居るから、尠くとも、歌詞だ



けには前述のような心配のなきのみならず、児童をして、眞の興味を起させ、所謂教育的教授が出来ることと思ひます。

余數年小學教育に従事して、聊か唱歌教授上に經驗もある故、この書を公にして、大方の批評を乞ふ事となつた。若し、この書が、唱歌界に幾分なり貢献する所があるならば、余の光榮とする所であります。

猶本書を編纂するについて、編者の用意を一言すれば、

一、曲節は、余が數年の實驗に徴して、兒童の嗜好に鑑み、その程度を考へて、順次音楽上の發達を圖ることに力め、凡て、前後の連絡を保つように作つてあります。

一、韻文には、朗讀的と唱歌的との二種がある。例へば、國定の高等小學讀本中、一の巻にある「浦烏子」の如きは、朗讀的韻文であるから

本書にはこれを省いたのであります。

一、本學年には、四度七度の兩音を自在に唱へしめ、かつ、六度音程と、一個の臨時音とを加へたれば、教授者は茲に注意されんことを望みます。

一、本書中、一音符に二文字を配當してゐるのは、その音長を二等分するのであります。

明治三十七年十二月二十日

編者識す

小國定讀本唱歌

高等科一學年

目次

春の景色	三
夏やすみ	五
富士登山	九
聯隊旗	一四
笠置落	一七

春の景色

(と調二拍子)

中等ニ

優美ニ



5. 5. 6. 1. | 2. 2. 1. 2. | 3. 2. 1. 6. | 5. 0.

1. スー ミ レ ツ ミ ツ カヘ リ ユ ク  
2. テニ モ ツ ハー ナ テ シ タ ヒ ク



6. 5. 6. | 1. 2. 3. 5. | 2. 2. 2. 1. | 2. 0.

ハル ノ ユ フ ベ ノ ア ラ ノ ミ ナ  
チー ノ コ ロ ノ アイ ラ シ



3. 4. 5. 3. | 2. 3. 2. 1. | 6. 6. 6. 1. | 5. 0.

トモ ナヒ キー タル チョー フ タ ツ  
イヂキテ アー ソベ モロ ト モ ニ



6. 6. 5. 6. | 1. 2. 3. 5. | 2. 2. 2. 3. | 1. 0.

アルヒハ サー キニ マダ アトニ  
ラークラ サカリ ノ ソ ガ ニ ハ ニ

春の景色

すみれつみつつ

歸り行く

春のゆふべの

村の道

ともなひ来る

蝶二つ

あるひは先に

また後に

手に持つ花を

したひ来る

蝶の心の

愛らしさ

いざ来て遊べ

もろともに

櫻さかりの

わが庭に

夏やすみ  
(に調四拍子)

稍早ク

愉快ニ



1. 3 5 6 | 5-3 1 | 2 1 2 3 5 | 2-0 |

1. コトシノ ナツノ ヤスミニ ハ  
2. コトシノ ナツノ ヤスミニ ハ



1. 3 5 6 | 5 5 3 1 | 2 1 2 3 2 | 1-0 |

ヤーマニ アソビテ カヘリコソ  
カイスイ ヨークモ ココロミン



1. 1 5 5 | 6. 6 5 4 | 3 2 3 4 6 | 5-0 |

マツノコカゲニ ヤスミテ ハ  
ヨセテハユキト ナルナミチ



1. 1 5 5 | 6. 6 5 4 | 3 2 3 5 5 | 1-0 |

タキミル コートモ タノシミヨ  
タダアケ クレノ トモトシテ

夏やすみ

一 ことしの夏の休には、

山に遊びて、歸り來ん。

松の木蔭に、休みては、

瀧たき見ることも樂よ。

二 ことしの夏の休には、

海水浴もこころみん。

よせては、雪と、ちる波を、

ただ、あけくれの友として。

三

からだきたふは山の道、

空気のよきは海のそば。

花つみ集め、貝を取り、

知識ちしきひろむる益多し。』

四

いざ。いざ。行かん、この夏も。

父もろともに、母ともに。

かはれる里さとのならはしを

見聞みきこくもうれし、旅をして。



# 富士登山

汽車の窓より

あふぎ見る

富士のすがたの

けだかさよ。

雲より上に

ぬけ出でて

いつも、たかねの

雪白し。

## 富士登山

(と調二分の二拍子)

中等ニ

廣大ニ



5 1 1- | 2. 3 2 1 | 2. 2 6 5 | 5-0

1. キ シヤ ノー マ ド ヨ リ ア フ キ ミ ル  
2. フ ネ ノー ノー ヘ サ カ イ ニ ナ ホ メ ケ ヤ  
3. ヤ マ ハー セ カ イ ニ ナ ホ メ ケ ヤ



4. 4 3 2 | 1. 1 2 3 | 2. 2 2 2 | 5-0

フー シノ スガ タノ ケダ カサ ヨ  
フー シノ スケ シキ ノオコ ノヤ  
カ タ チノ ヨー キハ コノ ヤマ



6. 6 1 7 | 6. 6 5 6 | 1-2 3 2 | 1 2 3 0

クモヨリウーヘニヌーケーイテテ  
カサニウーツルウーナーイバラ  
ハールノカスミノターツーアアシ



4 — 3 2 | 1. 2 3 4 | 5. 5 5 5 | 1-0

イー ツモ タカネ ノニキ シロ シ  
カー ゲハ タカヨリ ノニキ シロ シ  
アー キハノイヨリヒ ノニキ シロ シ

八



二 船のへさきに、

ながめやる

富士<sup>ふじ</sup>のけしきの

おもしろや。

さかさにうつる

うなばらの

かげは、ゑよりも、

たくみにて。

三 山は、世界に、

多けれど、

形のよきは

この山ぞ。

春のかすみの

たつあした、

秋の入日の

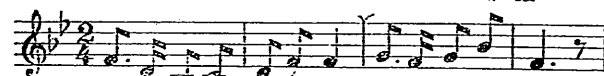
さす夕べ。

聯 隊 旗

(變ノ調ニ拍子)

稍早ク

壯嚴 =



5. 3 1 2 | 3 5 5 | 6. 5 6 i | 5. 0

1. リガテン ノーノ ミテツカ ラ  
2. ナガキツ キヒノ ソノアヒダ



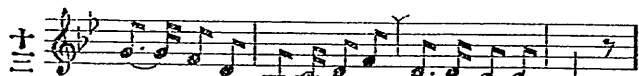
3. 2 1 2 | 3 5 5 | 3. 3 2 3 | 1. 0

サブケタ マヘル レンタ イキレ  
カヒニサ ラサレ アメニメレ



1. 1 i 3 | 2. i 6 5 | 3 6. i | 5 5 5 0

ヘータノ テガラハクニホマレン  
ガンバノ アヒダチセー フイシ



6. 6 5 3 | 1. 2 3 5 | 3. 3 2 2 | 1. 0

ハータノ ケガレハクニハダシ  
クロキチハ タノヒカリトシ

聯 隊 旗

(つゞき)



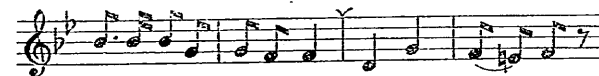
1. 1 i 6 | 6 5 5 | 3 6 | 5 + 4 5 0

カタシケ ナクモ ソノヘリハシ  
サケシチハタノホマレトシ



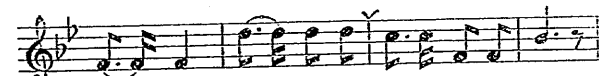
5. 5 5 | 3. 3 3 3 | 2. 2 7 7 | 1. 0

コートゴヘイカノオソテメヒモ  
ヒトタビエテハナチヨメデモ



1. 1 i 6 | 6 5 5 | 3 6 | 5 + 1 5 0

マタカシコケモパンタハク  
ヨロソヨマデモツタハユク



5. 5 5 | 3. 3 3 3 | 2. 2 5 5 | 1. 0

テンノーヘイカノオソフトケレ  
レンタイキロソータソトケレ

聯隊旗

わが天皇の御手づから、  
さづけたまへる聯隊旗。  
旗のてがらは國のほまれ、  
旗のけがれは國のはぢ。  
かたじけなくも、その縁は  
皇后陛下の御手縫。  
また、かしこくも、番號は  
天皇陛下の御筆ぞ。

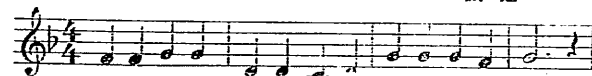
長き月日の、その間、  
風に、さらされ、雨に、ぬれ、  
軍馬の間を往來し、  
黒きを旗のひかりとし、  
さけしを旗のほまれとし、  
ひとたび、えては、千代までも、  
萬代までも、つたへゆく  
聯隊旗こそたふとけれ。

笠置落

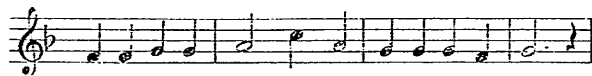
(律旋調四拍子)

稍早ク

誠ヲ込メテ



1 1 2 2 | 6 6 5 6 | 2 2 2 1 | 2-0 |  
 カ サ キ ノ ヤ マ ノ ア ン ザ イ シ ョ  
 ノ チ フ サ ス エ フ サ タ ダ フ タ リ



1 1 2 2 | 3-5 3 | 2 2 2 1 | 2-0 |  
 マ タ ソ ク ヘ イ ニ オ ソ ハ レ テ  
 ホ ル ヒ ル ミ ツ カ シ ョ ク モ ナ ク



6 6 6 6 | 6 6 5 3 | 6 6 5 6 | 2-6 5 |  
 ヨ ク ヘ モ シ ラ ズ オ チ タ マ フ ---  
 ア - ヨ ミ ツ カ レ テ マ ツ カ ゲ ニ ---



3-5 5 | 6 6 5 3 | 2 2 2 1 | 2-0 ||  
 キ - ミ ノ オ ト モ ニ ツ カ ヘ シ ハ  
 ノ - サ ヒ タ マ フ ソ イ タ ハ ツ キ

十六

笠置落

笠置の山の行在所

また、賊兵におそはれて、

行くへも知らず、落ちたまふ。

君のおともに仕へしは、

藤房、季房、ただ二人。

夜、晝、三日、食もなく、

歩み疲かれて、松かげに、

ふさせたまふぞ痛はしき。

十七

君は御袖に、ふりかかる

露つゆうちはらひ、さして行く、

笠置かさぎの山を出でしより、

天あめが下には、かくれがも

なし」と歌はせたまひしに、

藤房ふちふさやがて、いかにせん、

頼むかけとて、たちよれば、

なほ、袖ぬらす松の下露したつゆと

御返歌ごへんか申し、泣きゐたる、

やみの天地を、また、もとの

御代にかへすはたが任ぞ。

金剛山下こんごうさんに、忠士あり。



MISS. 7

明治三十八年一月二十四日印  
明治三十八年一月二十七日發  
明治三十八年三月二十五日訂正再版印刷  
明治三十八年三月二十九日訂正再版發行

國定  
小學讀本唱歌

高等、各金五錢

不許筆記代用	著作權	不許複製轉載
--------	-----	--------

編纂者 田村 虎藏  
 發行者 渡邊 鐵藏  
 發行者 鈴木 常松  
 印刷者 大西 鍊三郎  
 印刷所 三協合資會社

東京市神田區錦町一丁目十番地  
 大阪府南區鹽通三丁目八十番屋敷  
 東京市麴町區有樂町三丁目一番地  
 東京市京橋區弓町二十四番地

# 發行所

東京市神田區錦町三丁目  
 大阪府南區鹽通三丁目  
 大阪府東區安土町四丁目

修文館  
 積善館

113  
235

